２　地理歴史・公民

学校番号	T2101

平成３１年度　地理歴史科

教科	地歴	科目	地理Ａａ	単位数	１	年次	１～４
使用教科書	高等学校「新地理Ａ」　（帝国書院）						
副教材等	標準高等地図 - 地図で読む現代社会 -						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

グローバル化が進み、一昔前よりぐっと世界が近づきました。しかし世界が近づいたからといっても「世界」を知らなければ意味がありません。この授業では地図帳などの基本的な見方や知識の定着はもちろん、諸国の様々な地理的、文化的特徴や生活を考察し、多面的なものの見方を養うだけでなく、広い世界で活躍できる「心」を作ることを目指します。
評価は出席、課題、定期考査で行います。

２　学習の到達目標

①生徒が主体的に学習に取り組む中で、地理的見方・考え方を見につける
②学習を通して、世界の各地域の成り立ちや特色を知り、国際社会への理解を深める
③現代世界の地理的事象を考察し、現代世界の地理的認識を養うと共に、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う
④世界地理を学習する上で、諸資料を効果的に地理の探求に活用することが出来る

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・世界の地理に対する関心を高め、主体的に学習に取り組むことが出来る。 ・地理を学ぶ中で、国際社会に生きる当事者としての自覚を持ち、能動的に考える態度を身につけている。	世界の地域の特色や諸課題について、歴史的背景などの様々な要素と関連付けて、多角的、多面的、批判的に考察し、その結果や過程を適切に表現できる。	・世界の各地域を理解するために、統計資料やグラフから、有用な情報を適切に読み取り、それらを効果的に地理の探求に活用することが出来る	国や地域によって異なる地形や気候、文化、産業などの基本的な知識を身につけている。 ・現代世界の地理的諸課題について地球的視野から理解し、その対策や持続可能な社会の実現について考察する
評価方法	・課題 ・定期試験	・課題 ・定期試験	・課題 ・定期試験	・課題 ・定期試験

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	世界の諸地域の姿と地球的課題	・地球儀や地図からとらえる現代社会 ・人間生活を取り巻く環境 ・世界の諸地域の生活 ・地球的課題と私達	○ ○	○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○	a:世界の国や地域に関心を持ち、国際社会に生きる自覚を持って主体的に学習に取り組み、考えることが出来る b:世界の地形、気候、産業、文化、エネルギー資源などについて地理的考察を行い、適切に考えを表現することが出来る c:資料やグラフを適切に読み取り、有用な情報を適切に活用することが出来る d:世界を取り巻く環境、文化、産業などを理解し、知識として定着している	課題 定期試験

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。